

Title	はしがき
Sub Title	
Author	豊泉, 貫太郎(Toyoizumi, Kantaro)
Publisher	慶應義塾大学大学院法務研究科
Publication year	2007
Jtitle	慶應法学 (Keio law journal). No.7 (2007. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	平良木登規男教授退職記念号 = Essays commemorating the retirement of Professor Hiraragi Tokio presented by his colleagues and former students
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1203413X-20070315--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

はしがき

本年をもって法務研究科初代委員長平良木登規男先生が定年退職される。制度が存在し、時が間断なく流れる以上止むを得ないこととはいえ、大きな悲しみを禁じえない。

先生は昭和40年に法学部を卒業され、大学院に進まれた後、昭和42年から2年間の研修を終えて昭和44年裁判官に任官、刑事裁判官の道を歩まれていたが、当時の三田法曹の「塾からより多くの法曹を」との共通の願望を荷って昭和62年母校法学部に戻られ、後進の指導と併せて精力的に法曹界への塾員の進出にご努力された。そして平成16年4月の法務研究科発足に際して開設準備室長、初代委員長の重責を荷われ、第一回新司法試験で見事な実績をあげた上での今回のご退任である。在職中種々ご労苦の多かったことを知る者として、誠に見事に任務を完うされてのご退任といえ、本来は慶賀申し上げるものと考え。しかし先生がお辞めになることは研修所一期後輩として永く親しくお付き合いいただいた私としては大きな寂しさを禁じえない。今ここに大いなる寂しさと深い感謝と、大任を果され安堵されているであろう先生のお慶びを些に共有させていただくこととし、本号を献呈してお別れの言葉とする。

平成19年3月

豊 泉 貫太郎